

知っておきたい

「更級日記といちはら」のこと

『更級日記』は平安時代中頃、菅原孝標女（すがわらのたかすえのおすめ）によって記された回想録です。冒頭、上総国司である父の任期が終わり、上総国府のある市原市から平安京へと帰る場面が、寛仁4年（1020年）であり、2020年は菅原孝標女が帰郷して千年の節目に当たります。

そこで、孝標女が過ごした当時の市原がどのような様子だったのか、わかりやすく解説します。

日時：2019（令和元）年 11月2日（土）

13時30分～15時

場所：市原市立中央図書館（市原市更級5-1-51）
2階 視聴覚ホール

申込：10月1日（火）から
中央図書館に電話（TEL 0436-23-4946）
または窓口で申込 ※ 無料

定員：先着50名



講師：田所真（たどころまこと）氏

1958（昭和33）年生まれ。國學院大學文学部史学科日本史学専攻卒業。1982（昭和57）年、市原市教育委員会入職。市原市埋蔵文化財調査センター所長、市原市立中央図書館館長補佐を歴任。日本考古学協会・国史学会会員。主な著作に「幻の国府を求めて—安房国・上総国」（『幻の国府を掘る 東国の歩みから』所収）、「房総三国の国府跡」（『東国の古代官衙』所収）。

申込・問合せ 市原市立中央図書館

TEL 0436-23-4946

